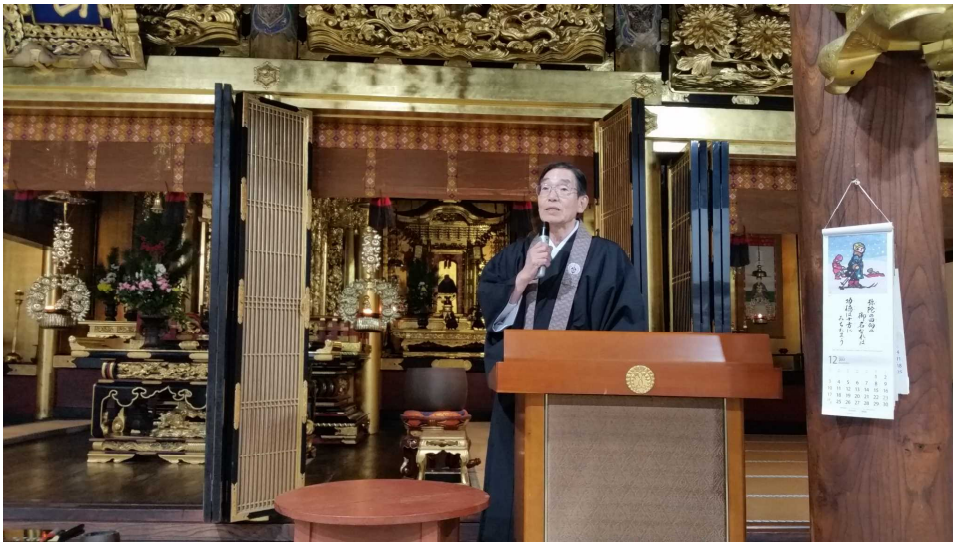


第6回目

石川 妙福寺 伊藤高次師



発行責任者

員弁組連研部会長

蓮成寺 藤田 智善

第6回目のテーマ

「お浄土とはなんですか」

《話し合いでの意見》

「今でも自分の幸せを見守って
くれている」

「そばにおってくれている」

「妹は死ぬ事を冷静に受け止めて
いた」

「行ってきますと、朝挨拶をした
のが最後の言葉になった」

「もっと何かしてあげたかった」

大切な人を亡くされた痛切な思
いをお話しいただきました。自分
が死後どうなるかは、わからない
という方も、亡くなった人から強
い影響を受け続けている、関わっ
ていていただいている「働き」が

ある。亡くなった人のおられる世
界があり、さらにその向こうに、
人のはからいを超えた世界、「仏さ
んの世界」を多くの方が感じてみ
えるのではないのでしょうか。

《話し合いでの意見》

「死後の世界はないと思う」

「死の世界は無であると思う」

「お浄土があることで生きる支え
になる」

「お浄土があつたらいいなと思う」

「亡くなった母は浄土にいったと
最近思えるようになった」

どちらが正しいということでは
なくて、どちらを選ぶかというこ
とです。私の前に二つの道があり
ます。死後の世界はなく、生きて
いる時がすべてであり、それを覚
悟して生きるという道と、亡くな
ってから如来のお力によって真実
の世界、浄土に生まれて悟りを得
て仏になるという道です。死んで

もそこで終わりではなく、還って行く所があると思つて今を生きたく人生です。

《話し合いでの意見》

「死んでからのことではなくて、今を生きる事を話したい」

「今の生活で精一杯で浄土の事を考える余裕がない」

浄土は、「清浄光明」の世界。悟りの世界です。北極星を見て今の自分の位置が分かるように、浄土にふれて生きていくことで、迷いの中でもがく今の自分の姿が明らかになります。浄土の光に照らされて今の自分を相対化してみる事ができるのです。ですから、浄土は死んでからのことではなくて、今の自分の生活と深く関わっているのです。また、浄土は、私たちがやがて還る世界。大切な人とふたたび出会う世界でもあります。

《話し合いでの意見》

「最近の若い人は、天国などというが、浄土という言葉を知らないのではないか」

「今回はたまたま人数が少なくなくて、じっくり話ができた。」

話は多岐にわたり、その他「臨死体験」をした方の浄土のお話し、生前の行いによって極楽浄土の「等級」があるのではという話、「自死をどう考えたらいいか」なども話されました。また、「輪廻はあると思う」「死んだ方の命と、新しく生まれる命とのつながり」「大きな力で今の自分が生かされている」というご意見もありました。

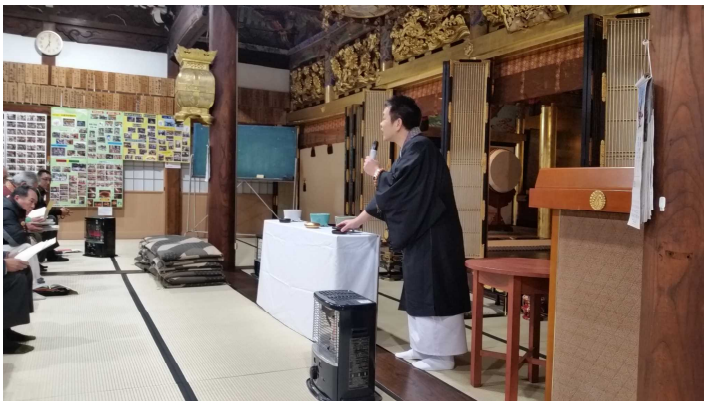
浄土というテーマは汲めども尽きぬ大きな泉のようです。師走の今年一番の寒い夜に集まって、熱心にお話しいただいた皆さんに御礼申し上げます。

師 明 隆 藤 師 佐 講 寺 法 作 福 事 弘 場 会 B

《仏事作法おさらい》

①焼香の作法を体験。

- ・焼香台の前で、阿弥陀さまに一礼をしましょう。
- ・お香をつまんだら、そのまま香炉に入れましょう。
- ・合掌し、お念仏をこころを込めて称えて礼拝しましょう。
- ・最後の阿弥陀さまに一礼を忘れずに。



第11期 連研だより

2018年1月